

ガーデンパーク見どころ花以外も

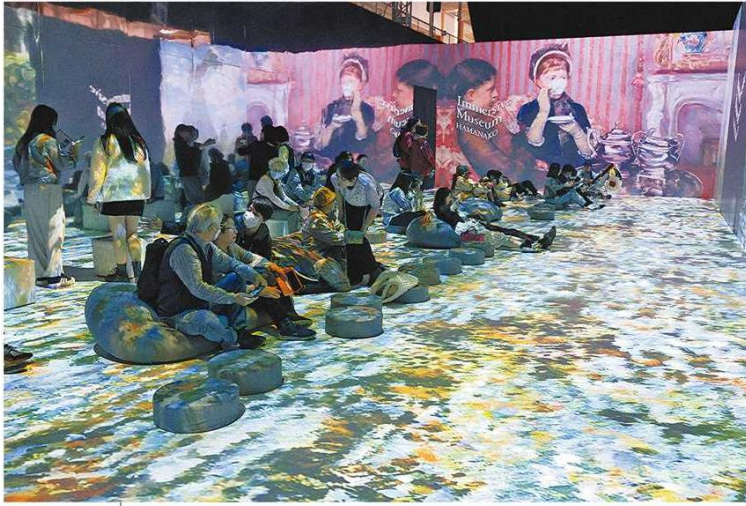
6日に開幕した浜名湖花博の浜名湖ガーデンパーク会場（浜松市中央区）の売りは屋外の花々だけではない。絵画の中に「入り込む」体験ができるデジタル美術展のほか、地元大学生が制作したデジタルアートも楽しめる。（成田真美）



デジタルアートの世界へ

有名絵画に没入

デジタル美術展「イマージム ミュージアム浜名湖」では、360度スクリーンに映し出される映像と音楽で、モネの「睡蓮」をはじめとする印象派絵画の中に入り込んだような感覚を味わえる。会場内にある印象派庭園と合わせて楽しんでおろつと、東京や大阪で人気を博したデジタルアートが花博会場に登場した。浜松市中央区若林町の渡辺晴夫さん(79)は「有名な絵が大きく映し出されて迫力があり、絵に吸い込まれるような感じだった」と話した。入場券とは別に、入館券大人800円、小中学生500円が必要。



自分が絵画に入ったように映し出される作品

地元学生が制作



「デジタルミライラボ」には、静岡文化芸術大と静岡大の学生が共同制作した体験型の作品を展示している。体を動かしたり触ったりして楽しめる。「花鏡」は、質問に答えながら園内を巡ってスタンプを集めると、その人の性格にあった花みくじがもらえる。デジタルアートも多く、印象派庭園にちなんだ「モネコラ」は、来場者の姿が画面に映ると、モネの名画「散歩、日傘をさす女」に描かれた女性の画像と合成される。来場者が近くで花が楽器演奏をする映像作品「フラワーオーケストラ」を制作した静岡文化芸術大3年の小林美月さんは「2大学で協力してつくった。音と映像を併せて楽しんで」と呼びかけている。

屋内空間全体に映し出される絵画を楽しむ「イマージムミュージアム浜名湖」は、いずれも6日、浜松市中央区の浜名湖ガーデンパークで